

San-ai

市村清追悼



土牛園

葬儀の記録

12月16日午前7時13分、三愛会市村清会長は、急性肝萎縮症のため逝去された。この知らせほど、リコー三愛グループの社員の心を衝撃で打ったものがあろうか。東京体育館の合同運動会で、あれほど愉しげに終始ご覧になっていたのは、わずかひと月余り前であったのに。わがグループの巨きな支柱であった市村会長。われわれの精神的リーダーであり、苦難の闇を貫ぬく希望の光であった市村会長。その急逝に、われわれの悲しみは深く、尽きることがない。今この悲しみをこめて、葬儀の日の記録をつづる。





▲幸恵夫人の胸に抱かれて、愛邸をあとに



▲リコー本社前でお別れする社員たち



▲築地本願寺の斎場へ

12月20日、午後1時、三愛会各社の合同主催による故市村清会長の葬儀は、東京築地本願寺で厳かにおこなわれた。

前日は雨で、同じ場所でおこなわれた午後6時からの通夜のときには、降り止んだものの冷たい風が吹き荒れ、哀しみを一層増すような天候であった。前夜とはうってかわったこの日の晴天は、広い境内に入りきれず歩道にまでお並びになった7000名に及ぶ会葬者のため、市村会長の生前の徳をたたえる天の配慮を思わせるものであった。

定刻、築地本願寺輪番、下川弘義氏の導師によ

って葬儀は始められた。

祭壇の遺影のまわりは紫のバラと黄色のバラでかこまれ、その外側は12500本の白い菊でかざられていた。香奠はもちろん供花も、故人の遺志によってご辞退したが、例外としてお受けした三笠宮家、佐藤栄作氏、石坂泰三氏からの3対が霊前に捧げられていた。

弔辞は最初に、葬儀委員長の石坂泰三氏、つづいて友人代表の内閣総理大臣佐藤栄作氏、郷里代表の佐賀県知事池田直氏、最後にリコー三愛グループ従業員代表のリコー城西営業所所長菊地栄之



▲下川弘義師の導師によって、みたまは天へ



▲会葬者に挨拶される石坂泰三葬儀委員長



▲司会を進める三愛会常任理事河合佐治氏

助氏が、心からの追悼の言葉を捧げた。

寄せられた弔電は3000余通、司会の三愛会常任理事河合佐治氏によって、衆議院議長石井光次郎氏、経団連会長植村甲午郎氏、日銀総裁宇佐美洵氏、マイアミ市長、オーストラリア政府などからの電文が紹介された。

つづいて焼香にうつり、葬儀委員長、喪主、友人代表、遺族の方々、運輸大臣原田憲氏、衆議院議員三木武夫氏、オーストラリア大使サー・ブラウン氏、セービン社会長チャーラップ氏、コモド一社社長ジャック・トラミエル氏、ガフ副社長ク

ローニー氏、中華民国台湾省コーイーホ氏など、政財界をはじめ各方面の方々が焼香して冥福を祈られた。

定刻の2時を過ぎること十数分、ようやくにして葬儀は終り、白菊の花を捧げる告別式にうつった。

最初是三笠宮宣仁親王殿下、つづいて佐藤首相夫人、近衛忠輝氏、同じく甯子夫人の献花が終ると、正面の扉が大きくひらかれ、冬の陽の傾く3時30分まで、政界財界芸能界はもとより各界の名士、知人などの人の波がつづいた。



▲悲しみの遺族席

弔辞

市村 清君

ここに最後のお別れを申し上げます。

君が辛苦に身を起し、君の波乱万丈の人生は夙に人の知るところ、その事業経営に示された泉の湧くが如き天外の着想と、生命を賭した烈々たる闘魂と比倫を絶する実行力や、忍耐力に就ても、亦贅言を要せざるところであります。この君の為人をよく知る私には、君の己に対する厳しさと酷使が君の健康を奪ったように思われて、痛恨極まりなく、述べる辞も知りません。

君は佐賀の人、気力の旺盛な人でありました。気概に充ちた精神的伝統は君の血に漲っていたようであります。自分が判断したことには妥協の出来ない性格でありました。如何なる逆境にも決して諦めず、最後の一押に至るまで努力を止めなかった。暴力などには決して屈せず、身を挺して之に当る精神の強さを持って居られた。若き日の闘病にも、後年の死の壁を越すが如き交通事故の体験にも、感覚を超越した心境

葬儀委員長

石坂 泰三

を得て居られた。

その自分に対する厳しさは、「如何なる場合でも他人に頼らぬという独立独歩の精神を己れに課した」と言って居られる。そして正しいと判断したことには、直進した、君の独立自尊、直情、果断の意気はかくして君の人生を築き上げて行ったのであります。

君の精神力の旺盛さは、これを裏づけるものに誠実さと、心の温さがあったのであります。君の述懐に、「重大な困難に直面したとき捨身の決心に徹したその根底には、自分のことより、母を喜ばせようとか、家内を倅せにしようとか、友人のためとか国家のためとかいう気持の方が強かった」と言って居られる。そして己を導き助けてくれる先輩や、友人や、部下の恩義を繰返し述べて居られた。

結局、君は愛情に人生の根本を置き、そこに生き甲斐を感じて居られたようであります。就中夫人に対する愛情と感謝は絶大なものであり、その波乱の半生をいつも力強く支えてくれたのは妻で



▲石坂葬儀委員長並びに主脳のかたがた



▲献花される佐藤首相夫人

あると言って居られる。その人の使い方も若冠の頃から格別のものがあり、後年その頃の朝鮮に渡って鉄の工場を経営された時、韓国人の扱い方を日本人より優遇したことに現われております。

戦後、銀座に「三愛」の進出をしたときの経緯は、人のよく知るところであります。その抱かれた「三愛主義」即ち人を愛し、国を愛し、勤めを愛するという、人道的な哲学と実践は、思うに、君の辛酸を嘗めた人生に、人情の機微に触れる機会の多かった事の賜でありましょう。君が日頃胸底に抱かれた「愛と責任に立脚する市村産業団」も、事業家として大衆に思を及ぼされた人類愛の一つの現われとも申せましょう。

困苦と闘い、幾多の浮沈を乗り切り、波乱に富んだ君の人生も、君の謂う「光は闇を貫き」、次第に基礎を固め、安定に向い、君も齢と共にその主角も取れ、愈々己が理想を実現することに情熱を傾けようとして居られた時、佳き、遠き将来を

残して、忽焉として幽冥相隔つに至りました。

満目凋落のこの初冬、又この友を失い、身辺は唯寂寥、後に残りしこの老友は亦如何せん。

今や、我国は一応産業の復興は成りしもの問題は内外に山積するの秋、これからが君の真に面目を発揮出来る日を前に、この異色ある一大偉才を失ってしまった。君に俟つもの甚だ大なるものがあつたと申すべく、財界の一大損失と申さねばなりません。

さり乍ら君が最愛の夫人にして賢なれば、以て後事に憂うるものなく、君の交友は叡にして又君の育成されし後進は駿なれば、以て君の遺されし志は継がるべく、そして君の才幹と徳風は、この経済界に清風となって永く寄与を齎らすでありましょう。

これが私の君を送る日の、せめてもの慰めでもあります。

市村君、安らかに冥せられよ。

弔辞

友人代表 内閣総理大臣

佐藤 栄作

市村 清君
君の突然の訃報に接し、今、この霊前にぬかつ

き乍ら、猶信じ難い思いであります。あらためて世の無常を、ひしひしと感ぜざるを得ませ



▲冥福を祈られるリコー三愛グループ相談役のかたがた

ん。

君は九州佐賀県に生まれ、昭和11年実業家として出発、以来戦中戦後を通じ、未曾有の激動期にあって、次第にその鋭鋒をあらわし、わが国経済界にひときわあざやかな光芒をかがやかせました。

数えきれない発明開発と豊かな生活文化を築くための企業家精神が、花ひらいて今日に至ったのであります。

君はあくまでも青年でありました。その新鮮な創意工夫、ひるむことのない闘志と、烈々たる開拓者精神を以て万事に当って来られました。その気概は、死の寸前まで変わることがなかったと信じます。

君の実業家としての天賦の才能は、まさに不世出のものであり、その識見は単に実業の世界のみにとどまらぬものがありました。その君はすでに亡く、まことに痛恨きわまりないものがあるのは、友人としての私情だけではありません。

いかなる苦労をも厭わない情熱家である君は、また篤実正義の人でありました。陽気な笑いとともに、知友の頼みを快く引きうけてくれたこ

とは一再ではありません。

君は幼少より努力の人でありました。また人知れずわが身に鞭打って研鑽にはげんだ人でありました。企業家として大を成し、海外にまで名声をとどろかせた後も、卒先して後進を指導鞭撻し、君の風をしたって、集るものが多かったと聞き及んでいます。君の歩んだ道を範とする青年男女は今後も数知れぬことでありましよう。

政治といい、経済といい、国を栄えさせる道は一つであることを君はいちばんよく知っていました。君が日頃口にしていて、人を愛し、国を愛し、勤めを愛す、という語は、今や、すぐれた理念として巷間に高く評価されて居ります。

そのことばは、君によってさらに一層その内容を深め、新しい日本精神として光沢を加えつつありました。

我が国はこれからますます世界に雄飛し、その勝れた力をもって人類の福祉に貢献しようとする重大な時機に際会しております。この大切なときに君を失うことはわが国にとって誠に大きな損失といわねばなりません。

市村君、いたずらに悲嘆の情にくれるのは、永遠の青年であった君の霊にふさわしくないかもし



▲献花はたえまなくつづく（右端は宇佐美日銀総裁）



▲三笠宮宣仁親王殿下

れません。
君の遺した事業、君がはぐくんだすぐれた企業

弔辞

佐賀県民代表 佐賀県知事

池田直

郷土佐賀の大先輩として、誇りとし敬慕してやまなかった市村清先生のご霊前にぬかずき、ここに県民を代表して謹んでお別れの言葉を申し上げます。

暫く御無沙汰しておりました私が、お宅にお伺いしました折は、メキシコ・オリンピックの入場式の実況放送を、先輩御夫妻と一緒に、ご居間で私共夫婦も交えて楽しく見せて頂き、11月初めお目に掛った時も、この祭壇に飾られてあるお写真のように、温情溢るる微笑を浮べて、明るくいつもの先輩らしく何彼と物語って下さいましたのに。

あまりにも突然の訃報に接し、只茫然として心の支えを失ったような感がいたします。

先輩の波瀾に富んだ生涯を通じ、最後までどんな苦勞も共にして扶けてこられた令夫人はもとより、ご親族の方々、また社員ご一同様のご心情いかばかりかとお慰めの言葉もない次第で

精神が今こそ永遠の発展をとげることと堅く信じつつ、ここに謹んで御冥福をお祈りいたします。

ございます。

先輩は幼少より不撓不屈の精神に燃え、その出身地佐賀北茂安小学校に学ばれ、佐賀中学校を卒業されたのち、戦前戦後を通じ我が国経済激動の時期にあって、その卓抜せる創意と比類なき勇氣と情熱とにより、常に他に先んじて苦難の途を克服し、株式会社リコー、三愛をはじめ、数多くの会社の社長として業を振り興し、わが国における傑出した経営哲学者として、斯界に君臨されるに至ったのであります。

今日まで藍綬褒章・紺綬褒章など拝受の栄に浴され、ここに叙位叙勲の御沙汰を拝されましたことは、これらのご事績からみて、うべなるかなの感がいたすのであります。

私共郷土佐賀県におきましてはもとより、日本のさらには世界の先達として、その名声を讃えられているのであります。

先輩は一貫して「人を愛し国を愛し勤めを愛す



▲霊前へ進まれる三木武夫氏



▲司葉子さん

る」という三愛精神を社是とされましたごとく、その識見においてその実行力において、誠に異色の実業家であられたのみならず、また誰よりも強い愛郷の方であり、東奔西走業務極めて多忙の中におかれましても、機会ある毎に寸暇をさいて郷土に帰られ、各方面にご尽力をいただき、激励の言葉を賜ったのであります。

即ち昭和33年には、母校北茂安小学校に総工費1,500万円をもって講堂を寄贈されたのをはじめ、県に対しましては予て体育文化施設の乏しきを憂えられ、38年3億円に上る巨費を投じて、全国に稀な設計と施工を誇る体育館を建設し、ご寄贈いただきました。

爾来この体育館は国際親善競技に、オリンピック競技強化練習に、柔剣道全国大会に、はたまた音楽その他の文化行事に遺憾なく活用され、郷土の体育文化の振興など特に青少年の育成に画期的な役割を果しており、県民ひとしく飲んでいるところであります。

今年の春の体育館5周年記念式典の際、館を埋めた男女生徒の若人が厳かに合唱する先輩を頌える歌には、先輩も奥さんも感無量のご様子で、お眼には涙さえ浮かべておられました。

私どもはご寄贈の体育館を永く市村体育館として大事に使わせて頂き、ご遺徳に報いたいと存じます。

先輩はまた常に郷土の産業に深い関心を寄せておられましたが、自ら日米コココーラボトリング株式会社鳥栖工場を建設されるなど、県の産業発展のため、企業誘致などの推進役として寄与されました数々のご功績は、永遠に忘れることができないものであります。

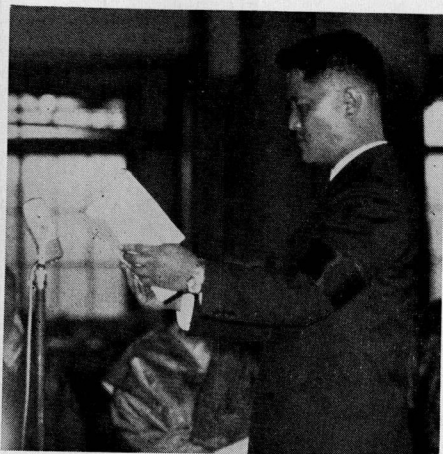
ここに先輩のご偉業を偲びますとき、次代を担う青少年の亀鑑として、また国民の尊い遺産として、永く燦然として輝き続けることごさいまいしょう。

先輩の開拓、築き上げられた諸々の会社の為には勿論、郷土佐賀県の為にも、また国の為にもこれから大いに先輩を必要とするとき、幽明境を異にいたしました今、人生の定めとは言え、惜別の情堪え難いものがあります。

勇気と情熱と人間愛に充ちた、惜しみても余りあるご生前のおもかげを偲びつつ、安らかなご冥福を心からお祈り申し上げますとともに、ご遺族の皆様方に対し衷心よりお悔み申しあげ、お別れの言葉といたします。



▲近衛冨子さん



▲弔辞を読む従業員代表菊地栄之助氏

弔辞

三愛会会員会社従業員代表

菊地栄之助

市村清社長。

社長は今年の8月、あの元気なお姿で、私どもにこうおっしゃいました。

「いまや、ここ3、4年あるいは5年のあいだ、われわれは最も恵まれた時代に逢着する。こういう素晴らしい時代にありながら、うちの会社は少しよくなってきたから自分ひとりくらい怠けてもいい、などと思っはいけない。この時期に、私も、今後ますます精進努力します。そして世界的な優秀会社にするという固い決意をもっている。だから私と一緒に、あなたがたもこの二度とない絶好のチャンスを、生かそうではありませんか。そして、あなたがた自身も、仕事に思いきり打ちこむことで、香りたかい人間になってほしい」社長は、私たちリコー三愛グループ全員を前に、こう語られたのです。あの時のお元気なお姿が、いまでも眼にうかぶようです。

さらに社長は、11月5日にひらかれたリコー三愛グループ大運動会にも出席され、「医師の手をふりきって、諸君と一緒にすごし

にきました。ほんとうに楽しかった」と語られたあと、

「寒さにむかう折から、諸君とご家族のご健康にも充分ご留意されるよう」と、まるでご自分のお身体のことを忘れたかのように、さもお元気そうに述べられたことが、胸のなかからさりません。私どもの誰ひとりとして、あの時、こんなにも早く、この悲しい日のくることを想像しえたであらうでしょうか。

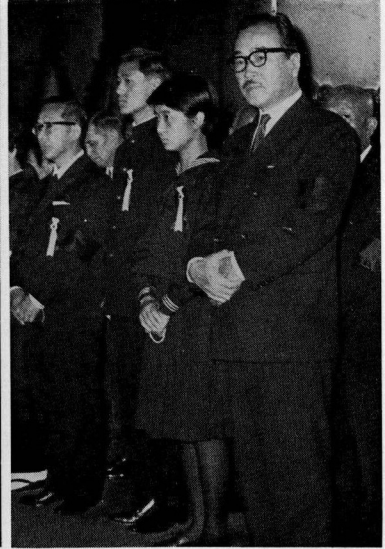
あの時の社長は、もういらっしゃらない。

社長は、私どもを、ただ親切にお導きくださっただけではありません。ある時は若々しいセールスマンの大先輩として、ある時はきびしい求道者として、またある時は骨肉を分けた父親と同じように、私どものすすむべき道を、手にとるように示してくださいました。それらはすべて幼い頃のご苦労、社会に出発されてからの、ご苦労のなかから生れた強いご信念だったのです。

また社長は、ある場所で私たちの携わっている仕事の意味について、こうも言われました。



▲石原慎太郎氏も弔問の列に



▲森繁久弥氏

「仕事のなかに自分の創意工夫が活かされてくれば、誰でも自然に仕事にうちこむことになる。夢中になって仕事に取り組めるようになる。そうすれば、仕事というものが楽しくなるし、自分も倅せになる。これだけでなく、生きた仕事とはいえない」

このお言葉でも判るように、社長はつねづね私どもを「事業の協力者」と呼び、ともに働き、ともに栄えることのみを考えていらっしたのです。

社内でお逢いする折々、
「しっかりやってるかね、ご苦労さん」
と、気さくにお声をかけてくださったこと、表彰式などで、ひとりひとりに、
「どうも有難う」

と、おっしゃってくださることが、私たちにとっては何ものにも替えがたい絆であったあの日は、もう帰ってはこないのです。

市村社長。

社長のあの独特の口調で、もういちど私たちに語りかけてください。

想いおせば、不況のドン底にあえいでいた時、「創業当時の精神に還れ」

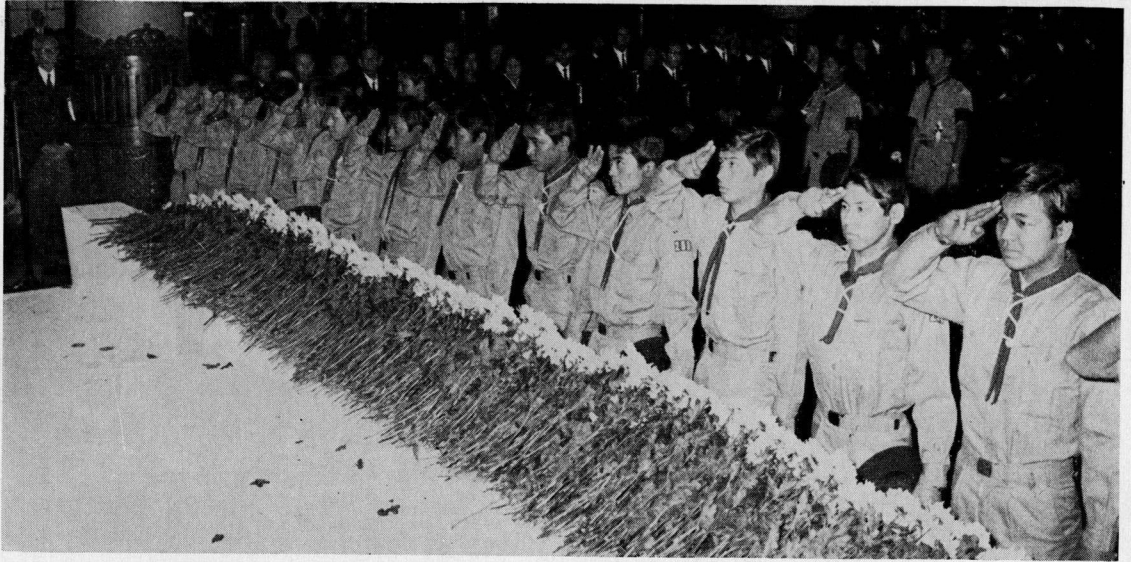
と社長はみずから営業の第一線にたたれ、陣頭指揮をなさいました。社長は、全社員の幸福のためにと、ご自分のご健康もかえりみるいともお持ちではなかった。あの難局はみごとに突破され、私たち若い社員に「やればできる」という自信と信念を、しっかりうえつけてくださいました。このことが社長のお身体に、どんなにか障ったであろうことを思うと、私たちは、このご霊前にお詫びする言葉もありません。

社長。

いまの私たちにとって最大の難局は、まさに社長がいらっしないということなのです。この大きな困難に際し、社長の「創業の精神に還れ」というお言葉が、改めてよみがえってまいります。

私たちはいま、このご遺訓を噛みしめて、まず社長のおのこしになった偉大な業績、すぐれた経営理念、広く深い愛でつらぬかれた若々しい精神をうけつぎ、全力をもって世界一の優秀企業として発展させることを堅く、堅くお誓いいたします。

どうか私たちを、いつまでも見守っててください。



▲さようなら、みたまよ安らかに（リコーボーイスカウト）

最後に、葬儀に際し各方面から賜った並々ならぬご好意にたいして、われわれリコー三愛グループ一同の深い感謝と、今後への決意を示すものとして、次のご会葬御礼の言葉を収録いたします。

ご会葬御礼

本日はみなさまご多忙中にもかかわらず、ご会葬くださいまして、まことに有難うございました。さぞかし、故人の霊もみなさまのご厚意のほどを、深く感謝してることと存じます。

故人は生前、その生涯のすべてを事業に捧げ、人々の俸せのために努めておりました。

「真実のこころと、愛でぶつかれば、どんな困難なことがあっても解決されぬことはない」という信念を、寿命のつきる瞬間まで抱きつづけ、愛こそ人の道である、人を愛し、国を愛し、勤めを愛する三愛主義を唯一の経営理念として、守り通してきました。68才という年齢は、けっして短かいとは申せませんが、グループ各社がようやく隆昌をみようとしているいま、せめていくらかでも生きのびて貰いたかったと、そののみが心残りでございます。

永い歳月にわたる波瀾多い社業の苦勞が、故人にとっては生き甲斐であっても、その寿命に

障ったであろうことを想うとき、われわれは涙なきを得ません。しかし、故人の精神は、リコー三愛グループ二十数社の社員一人一人の中に生きつづけ、その遺業を継承してゆく所存でございます。

今後とも故人同様、三愛会会員各社をよろしくお願いいたします。

昭和43年12月20日

喪主	市村幸恵
葬儀委員長	石坂泰三
葬儀副委員長	館林三喜男
同	今泉耕吉
友人代表	佐藤栄作
同	村山長一
	リコー三愛グループ
	各社一同